

# 委託事業実施内容報告書

## 平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 【日本語教室の設置運営】

受託団体名: イーエーエス鈴鹿 (EAS 鈴鹿日本語教室)

#### 1 事業の趣旨・目的

地域に在住のブラジル人児童生徒が日本社会との共生の推進を図ることを目的とする。かつ、不就学児童の解消の一助となること。

#### 2 運営委員会の開催について

##### 【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
5月8日 (金)	倉橋徒夢、Abidemi Ilerika、Virginia Beatriz de Morais、Laura Negishi	開講について。指導内容 と進行。	科目や講師の振り分け、時間表、教室 運営、日本語指導などについて。
1月25日 (月)	倉橋徒夢、Abidemi Ilerika、Virginia Beatriz de Morais、Laura Negishi	進行状況	児童生徒の学習能力および理解度について。

【写真】(会議風景の写真を1~2枚参考に添付して下さい。)

#### 3 日本語教室の開催について

- ①日本語教室の名称: EAS 鈴鹿日本語教室
- ②開催場所: 513-0823 三重県鈴鹿市道伯 5-23-29
- ③学習目標: 日本社会の共生に必要な日本語・日本の慣習を生徒たちに身につけさせる。
- ④使用した教材・リソース: 自作テキスト、当校自作のひらがな・かたかな練習帳など
- ⑤受講者の募集方法: 当校登録済み児童生徒(口コミやチラシ、ホームページ掲載、保護者会・説明会)  
(※どこでどのような媒体を使って募集したかを記載。なお、募集のチラシ等があれば添付すること。)
- ⑥受講者の総数 159 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
- ⑦ 開催時間数(回数) 1120分=18.7時間 (全 28回) (高2年生)  
開催時間数(回数) 1120分=18.7時間 (全 28回) (高1年生)  
開催時間数(回数) 1080分=18時間 (全 27回) (中2年生)  
開催時間数(回数) 1120分=18.7時間 (全 28回) (中1年生)  
開催時間数(回数) 1120分=18.7時間 (全 28回) (小6年生)  
開催時間数(回数) 1120分=18.7時間 (全 28回) (小5年生)  
開催時間数(回数) 3420分=57時間 (全 114回) (小4年生)  
開催時間数(回数) 3570分=59.5時間 (全 119回) (小3年生)  
開催時間数(回数) 3480分=58時間 (全 116回) (小2年生)  
開催時間数(回数) 3450分=57.5時間 (全 115回) (小1年生)

#### ⑧日本語教室の具体的内容

別紙の「日本語教室の具体的内容 20100402(EAS 鈴鹿).docx」ファイルをご参照ください。

⑨ 特徴的な授業風景(2～3回分)

(特徴が最もよく表れた日の授業報告を詳細に記載。また、教室風景の写真を数枚添付。)



写真1:日本語クラスでの書道体験授業

6月19日に行った小3年生の授業。この日はゲームをすることにしました。今まで学習したひらがなと漢字のカードを使って、各グループに分かれて、その中で1人がリーダーとして好きなカードを読んで、残りのメンバーが素早く取り上げるという内容でした。最後のカードが終わったら、一人ひとりで自分がとったカードをみんなに読み上げる。

5月19日に行った小4年生の授業。この日は、各児童の理解度をチェックするために、黒板を使って今まで学習したひらがな・カタカナ・漢字を練習させた。その際、書き順だけではなく書くことの楽しさと美しさを追求しました。(右側の写真が実際の授業風景です。)

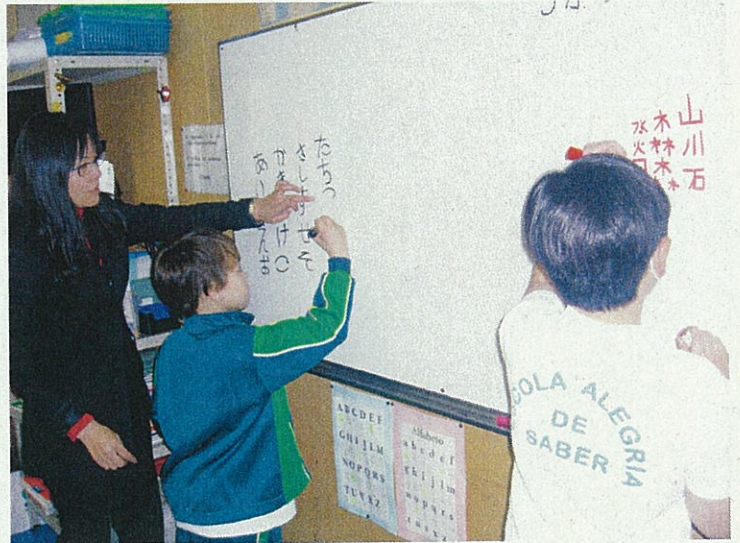


写真2:黒板を使った書き練習

⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
CARINA FUZIYAMA DA SILVA	ポルトガル語(ブラジル国)	4年	115回	授業補助
DELIMARA HOCHICA CARDILHO	ポルトガル語(ブラジル国)	18年	116回	授業補助
MARILDA DE PAULA RIBEIRO	ポルトガル語(ブラジル国)	11年	119回	授業補助
DELIMARA HOCHICA CARDILHO	ポルトガル語(ブラジル国)	18年	28回	授業補助
GEISA KARLA BUENO IGAMI	ポルトガル語(ブラジル国)	6年	28回	授業補助

⑩ 支援者の名簿(⑦以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
坂本久海子	日本語教員養成指導者	日本語教育要請講座	2回	アドバイザー

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況:

当初設定された学習目標が達成されたと感じています。本事業をスタートする前、日本語に触れたことのない児童がほとんどでした。しかし、今では日本語を勉強したい児童が多くみられます。はじめ、日本語教室に来るとはしゃいだり大騒ぎしたりしていた児童たちが日本語教室に参加して勉強するうちに少しずつ落ち着いて勉強できるようになりました。

② 学習者の習得状況:

現在、児童たちの生活環境を考えると、日本語に触れている時間(日本語教室のみ)が限られています。これによって、児童たちが実践で日本語を活用できる場面も少ないが、日本語教室ではなるべく母国語を使わずにしています。その結果、児童たちの日本語での会話も段々増えていると感じています。今後とも日本語会話中心として指導を行って生きたいと考えています。

③ 日本語教室設置運営の効果, 成果

本事業により、多くの児童たちが今まで触れてことのない日本語を体験して社会とのかかわりを持つようになっています。当校に来校した日本人のお客さんと日本語であいさつしたり会話したりする場面も増えています。更に、野外活動などで日本語を使う機会も増えています。これらをみえると、以前になかったことなので、日本語教室の成果があると実感しています。

④ 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

周辺の公立小学校(椿・桜島・飯野・清和)とは定期的に生徒間の交流を深めています。その際、学習した日本語を一生懸命に話そうとする児童たちの姿がみえます。この成果を引き続き継続させたいと思っています。

④ 改善点, 今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状

児童たちは教室でしか日本語を使う機会がなく、家に帰ると通常のポルトガル語生活に戻ります。さらに、学校内でも日本語教室以外で日本語が使える場所が少ないです。そのため、日本語の定着度が遅れている大きな要因になっていると思います。

b. 今後の課題

日本語教室を運営する以上、日本語の学習能力を向上させることにより、地域社会での生活を不利なく実現させることを最終目標になります。これに達するために、学校や親、そして周辺団体との連携が不可欠になります。支援者や日本語教育アドバイザを来校できるような機会を増やすことに努めたい。

c. 今後の活動予定, 展望

今度とも NPO 愛伝舎との日本語教育に関する連携を深め、周辺の公立学校との交流が実現できるように努力していきたい。

③その他参考資料

・EAS 鈴鹿日本語教室 交流会

※写真は、肖像権等に配慮し、差し支えのないものを添付すること。

